

末梢神経障害・しびれ

がんの治療中に多くみられる「しびれ」は末梢神経障害の自覚症状のひとつです。治療を続けるうちに症状が出てくることが多いです。多くの場合は、抗がん薬を終了して数ヶ月で症状が改善すると言われています。症状の改善には個人差があります。

糖尿病の合併症の末梢神経障害があると、症状が悪化したり、強く現れることがあります。

原因は. . .

抗がん薬の副作用
がんによる神経の圧迫

観察ポイント. . .

☑手足の感覚の異常

手足のしびれ、ジンジンする、何かに少し触れただけで痛くてピリッとする、手足に力が入りにくい、手袋をはめているような感じがする（感覚が鈍い）、手足が痛い、手足が燃えるように熱い

☑末梢神経障害・しびれによる生活への影響

細かい作業が難しい、衣服のボタンが留めにくい、つまづく、うまく物をつかめない、つかんでいた物をよく落とす、しびれや痛みのため夜眠れない

☑手足の皮膚の状態・傷の有無

☑耳が聞こえにくくなる・耳鳴りがする

（シスプラチン（ランダ®）を使用している場合）

こんな時は相談しましょう

- ◇ これまでのしびれと違う感覚や変化があった場合は、しびれのために日常生活でどんなことに困っているのか、小さな変化でもあっても気になることがあれば、医師・看護師・薬剤師に相談しましょう。
- ◇ 手足のしびれや違和感が抗がん薬によるものなのか、糖尿病によるものなのか判断がつかない場合もあります。肝心なことは苦痛をできるだけとって、足の場合は足病変を起こさないことです。足の感覚が鈍って異常に気づきにくい時は、目で見る（観察）で補いましょう。変だなと思えば、医師・看護師に相談しましょう。

末梢神経障害・しびれがある時に試してみましょう

◇ 症状改善のための工夫してみましょう

- ・衣服や靴下は締め付けないように、きつすぎないものを選びましょう。
- ・保温が有効な場合もあるので、**やけどに注意**をして、症状のある部位をカイロやホットパック等で温めてみましょう。症状が改善しない場合は中止してください。
- ・マッサージが有効な場合があります。強すぎない程度のマッサージを試してみましょう。



◇ 日常生活で注意しましょう

- ・感覚が鈍くなっているため、やけど（低温やけども含む）に注意しましょう。
- ・運動神経や感覚神経が鈍くなり、筋力も低下するため、転倒等に注意しましょう。
- ・自分の足に合った靴やインソール（中敷き）の入っている靴を選びましょう。かかと（ヒール）の高い靴は避けましょう。
- ・深爪に気をつけましょう。指先がしびれている場合、深爪をする可能性があるため切り過ぎないように注意しましょう。
→* フットケアのシートを参照してください。



◇ オキサリプラチン（エルプラット®）を使用している場合

- ・投与後 1 週間程度は、寒冷刺激でしびれが誘発されたり、増強することがあります。手袋や靴下の着用、水ではなく温水による手洗い・洗面、冷たい飲料水を避けるなど、寒冷刺激を避けるようにしましょう。

【引用・参考文献・資料など】

- ◇ 国立がん研究センター がん情報サービス(ganjoho.jp) : さまざまな症状への対応>しびれ (https://ganjoho.jp/public/support/condition/peripheral_neuropathy/ld01.html) (検索日：2024年1月28日)
- ◇ 中村将人・中村久美監修：抗がん剤の副作用対策「オキサリプラチン投与による末梢神経障害への対策」, 日本ケミファ株式会社.
- ◇ 日本糖尿病学会 編・著：糖尿病治療ガイド 2022-2023, 文光堂, 2022.